

子どもをボランティア活動に

千葉県少年自然の家では子ども達も草取りやゴミ拾い等のボランティア活動を行っています。子ども達のボランティア活動について文教大学人間科学部教授の秋山伸先生にお話をしました。



1. 奉仕活動とボランティア活動は異なるものです

奉仕活動とボランティア活動は、しばしば混同されています。

奉仕活動は、幼稚園や小学校の行事等で実施され、子どもは「強制されて」との印象を抱く場合があるようです。

それに対して、ボランティア活動の根幹は「自発性」と「無償性」にあり、「強制」とは相容れないのです。



2. ボランティア活動

への誘い

「全校一斉で行う川原のゴミ拾い」という奉仕活動と異なり、親が地域の自然環境保全に熱心で、その親と一緒に加わった自然観察会が

きっかけとなって自然環境問題に目覚めることがあれば、これは長続きします。

学校行事で特別養護老人ホームを訪問し、高齢者と直接お話をし散歩のお手伝いをしたところ大層喜ばれ、それが励みとなって個人的にしばしば訪問するようになったとすれば、これも長続きする可能性があります。

いずれも、自分自身の喜び体験、自分自身の決断を伴っていますから。



3. ボランティア活動で得られるもの

ボランティア活動は、自発的な直接体験活動です。単に文字や映像を通じての想像体験と異なり、喜び、嬉しさ、悲哀、時に怒りなど生々しい実感を伴い、自らすすんで調べ、創意工夫をこらすことになります。自発的にやりたいことを無理せず楽しく続けることが期待できます。

それは自身の血肉となる体験、成長につながる体験となり、生涯にわたる趣味の獲得、NPO・NGO団体等に加わって自らのライフワーク獲得までつながり得るのです。

先生のための移動教室 ～目指せ遊びの達人～

8月2日～3日、先生自らが「野外活動を体験する」という教員向けキャンプを実施しました。

最初は緊張した面持ちで参加していた7名の参加者の皆さんでしたが、一つ一つのプログラムを通してお互いを知り合い、そして仲間と楽しい体験を共有することが出来、最後には素敵な仲間になれました。

1日目はプロジェクトアドベンチャーから始まりました。このプログラムは、お互いの名前を覚え、初めて会う仲間と打ち解ける良いきっかけとなったようです。午後には夏の自然を身体いっぱいに感じる事の出来る夏野菜の収穫とネイチャーゲームを



然の中でのんびり過ごしている心地よくなってしまい、眠ってしまう人が続出しました。

その夜に行ったクライミングウォールでは仲間を大声で応援しあい、夜はお互いのことや教育論まで話しがはずみ、熱く語り合っていました。

2日目は前日に収穫した夏野菜を使った手作りピザを作りました。なんとオープンも段ボールで手作りです。参加者の創造性豊かな色とりどりのピザは歓声があがるほどおいしく出来上がりました。

今回のキャンプでは、プログラムを仲間と共に楽しみ、失敗も含めてその過程を楽しみ分かち合うことの楽しさを、先生自ら感じてもらうことが出来ました。この「先生のための移動教室」が今後のより良い「子ども達の移動教室」につながっていくことを願っています。

夏休み ボランティア活動報告！ ～ボランティアの力、ボランティアの笑顔が大活躍～

千葉県少年自然の家では、子ども達が生き生きと活動できるよう手助けしてくれるボランティアを募集しており、現在129名がボランティアとして登録しています。夏休み期間中の8月には、延べ76名のボランティアが、プログラムの指導・サポート、施設整備といった様々な活動を行いました。その様子をいくつかご報告します。

○プログラム指導

クラフトプログラム「カッコウ笛作り」や「わらじ作り」の指導者として、参加ファミリーに優しく、わかりやすく指導していました。また、所内をめぐり季節を感じる「自然観察会」では、様々な生き物について楽しい説明をしていました。



○主催プログラムサポート

主催事業「先生のための移動教室」では先生方の活動を裏方としてしっかりサポート。家族向けプログラム「収穫体験」では、子ども達と一緒に夏野菜の収穫に汗を流し、「クライミングウォール体験」では挑戦する子ども達の応援にと大活躍でした。

○教材製作・環境整備

キャンプファイヤーで使用するトーチ作りやクラフトの材料製作、そして、畑の整備といった地道で利用者の方からは見えにくい所でも素晴らしい働きがありました。

今後も、千葉県少年自然の家では、ご利用される方々だけでなく、ボランティアの方々にとっても、魅力ある施設になるよう、ボランティアの活躍の場を提供していきたいと思っております。

(ボランティアの募集については裏面のインフォメーションをご覧ください)